

重点施策 15 図書館蔵書及び機能の充実

【施策方針】

地域文化の創造・発展に寄与するとともに、誰でも気楽に利用できる図書館を目指し、機能と経営の充実を図り、市民の読書意欲に応え、教養が深まる読書活動を推進する。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 蔵書内容の充実
- ② 読書活動の推進
- ③ システムの更新及びレファレンスサービスの充実

(2) 主な施策・事業の実施状況

① 蔵書内容の充実

図書館は、蔵書の充実が最優先課題である。予算編成時に、蔵書購入費用が削減の対象とならないように財政部門に対して説明している。

蔵書の選択については、図書館流通センターから出される新刊リスト、ベストセラー、市民からのリクエストにより決定した。

② 読書活動の推進

国の制定した「子どもの読書活動の推進計画に関する法律」に基づき、第二次の「八幡浜市子ども読書活動推進計画」の策定を図書館協議会委員とともに協議し、作成した。また、おはなしボランティア養成講座を開催し、読み聞かせボランティアグループの育成及び向上に努めた。

③ システムの更新及びレファレンスサービスの充実

老朽化した図書館のコンピュータシステムを更新し、利便性が向上した。

また、来館者が閲覧できる新聞のデータベースが利用可能となり、それによってレファレンスサービスの充実が図られた。

【事務事業点検評価委員意見】

- 限られた図書購入費の中で、地域資料を含む市民の幅広い図書の充実に対する要望に応えるために、予約リクエスト（新規購入）ができるようになっている。これらの仕組みを周知し、さらに利用者が増えることを期待したい。
- 自分で本を読むのがあまり好きでない子どもでも、読み聞かせは好きだったりするので、読書への敷居を下げる「ゆめいろぼけっと」などのボランティア団体は、豊富な活動実績を有し、成果を上げている。読書指導の一環として今後も大いに期待できる。
- 厳しい財政状況の中、可能な限りのサービスを展開している。将来の図書館利用者の拡

大に通じる事業である。今後も限られた資源を有効に活用し、市民の要望に応えるべく創意工夫を重ね、努力されたい。

○退職して年金生活に入った高齢者にとって、無料で利用できる公共施設は公立図書館である。図書館はすべての住民に資料・情報提供の場になっている。高齢者が図書館で、高齢者サービスの担当者となることができれば、社会との関わりを持ち続けることになり、また高齢者サービスが高齢者のニーズに応えるものとなり得る。職員としての雇用が困難であれば、ボランティアとしてでも高齢者サービスに関わることが望まれる。それにより、高齢者に社会貢献の機会を提供することが可能となるのではないか。

【自己評価】

- 予約リクエスト（新規購入）について、広報やHP、館内でのPR、CATVでの案内を継続的に実施し利用者のサービスの周知を努めたい。
- 読書活動を推進するとともに、読み聞かせボランティア団体との連携をさらに深め、活動が継続できるよう今後も支援していきたい。平成26年度より実施している司書によるブックトーク（テーマに沿った本を紹介し、関連本を団体貸出するサービス）派遣も継続的にPR、実施していきたい。
- 市民が必要な知識や情報を、必要な時に適切に入手できるよう、図書館サービスのさらなる充実に努めたい。また市民図書館にある来館者PCで国立国会図書館デジタル化資料送信サービスが利用できるよう準備をすすめていきたい。
- 郷土資料やレファレンスの知識を継承するために司書の定期的な採用と育成は重要課題と考えている。図書館ボランティアに関しては市民図書館が現在実施中であるが、高齢者ボランティアの高齢者サービスについては、実施の可能性について検討したい。